

令和3年上半期の水難事故発生状況（令和3年1月～6月）

※注：令和3年の数値は暫定値

1 水難事故が大幅増加！

- (1) 発生件数は41件（前年同期比+17件）
- (2) 罹災者数は58人（前年同期比+31人）
- (3) 死者数は21人（前年同期比+8人）

	令和2年	令和3年	増減
発生件	24	41	+17
罹災者	27	58	+31
死者数	13	21	+8



2 県民の罹災者が倍増！

- (1) 県民の罹災者は41人で、全体に占める割合は71%（前年同期比+23人、+4ポイント）
- (2) 県外の罹災者は10人で、全体に占める割合は17%（前年同期比-3人、-9ポイント）
- (3) 米軍等の罹災者は7人で、全体に占める割合は12%（前年同期比+5人、+5ポイント）

		県民	観光客	米軍等
令和2年	罹災者数	18	7	2
	割合	67%	26%	7%
令和3年	罹災者数	41	10	7
	割合	71%	17%	12%

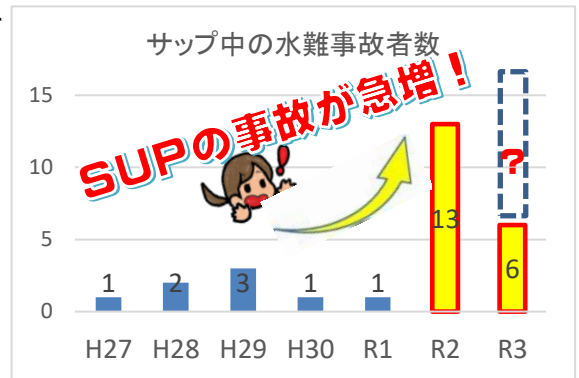


3 水難事故の特徴

- (1) 令和3年は、1月から水難事故が多発している。
 - ・ 1月～2月は魚釣り、不明の割合が多く、3月以降はマリンスポーツ（ダイビング等）の割合が多い
 - ・ 飲酒時（港で飲酒等）の罹災者が多く、ライフジャケット等を着用していない事故が多い

- (2) 特に、令和2年から、サップ中の水難事故が急増している。

- ・ 平成23年～令和元年のサップ中の罹災者は合計で8人だが、令和2年は1年間で13人が罹災
- ・ 令和3年は、6月末時点で6人が罹災
- ・ 風や潮流で沖に流されるのが大多数（自然の力に関する知識不足、サップに関する知識・技術不足）
- ・ サップ中の水難事故は全てのケースで「沖に向かって風が吹いている」「風速5m以上」



SUPは風の影響を受けやすい！

H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3 6月末時点
1	2	3	1	1	13	6

※H23～H26はサップ中の事故は発生なし

- (3) スノーケリング中の事故も増加している。
 - ・ 平成23年～令和元年のスノーケリング中の罹災者は合計で179人で、令和2年は1年間で19人が罹災
 - ・ 令和3年は、6月末時点で6人が罹災し、前年同期比で5名増加している。
 - ・ スノーケルの操作ミスや単独でスノーケルを行っている時の罹災が多い。
 - ・ ライフジャケットを着用しないで罹災するとほとんど死亡している。



4 水難事故防止のポイント！

- 風向、潮流、離岸流、高波等の影響がある危険な場所を利用しない
- 複数で利用し、お互いに目を離さない
- 過労、睡眠不足、飲酒、薬物服用の状態を利用しない
- **ライフジャケットやウェットスーツなどの浮力体を必ず着用する**
- 器具等の正しい使用方法を習得し、使用前の点検・整備をする
- 海の危険生物への知識（被害防止方法、被害時の応急処置要領を習得する）